

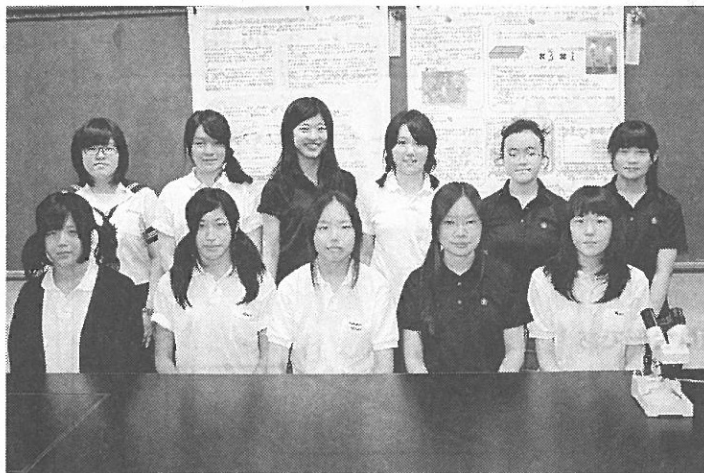
全国環境科学会で山梨英和高快挙

2研究が最優秀、優秀賞

山梨英和高校の自然科学同好会は、全国の研究者が成果を発表する環境科学会2013年會に、ササラタニとバイオディーゼル燃料の研究をそれぞれポスターで発表し、大学生以下の部門で最優秀賞と優秀賞をダブル受賞した。初参加での快挙に、メンバーは「受賞を励みに研究をさらに発展させたい」と喜んでいる。

〈桑原久美子〉

ダニ生態、バイオ燃料を発表



環境科学会で最優秀賞と優秀賞をダブル受賞した山梨英和高校自然科学同好会のメンバー

メンバー22人は昨年度から、ダニの生態などに詳しい顧問や山梨大教授からアドバイスをもらい研究に取り組んできた。研究者の集まる学会の雰囲気学ぼうと、今年3、4の両日、静岡県で開かれた環境科学会に高校生として初参加。博士号取得者や大学生らに混じってポスター発表した2研究は、全63研究の中でいずれも入賞した。

最優秀賞を受賞した「ササラタニによる愛宕山の環境評価」は、同校北側の愛宕山に定期的に通って土を採取し、落ち葉などを食べるササラタニの生息数で自然度を評価。

道路など人工物から離れた地点ほど生息数が多く、豊かな自然環境であることを示した。同研究に携わった同好会副会長の林日菜子さん(16)は「2年間は「研究は地道な作業の繰り返しだったけど、評価されてうれしい」と笑顔。「学会でもらったアドバイスを生かして研究を発展させたい」と話す。

優秀賞の「太陽熱を利用し

た廃食油からのバイオディーゼル燃料生産」は、環境に優しい太陽熱を使ったソーラークッカーでバイオディーゼル燃料を生産する方法を開発した。同好会長の川上詩織さん(16)は「2年間は「大勢の研究者に接して刺激を受け、研究も勉強ももっと頑張ろうと思った」と話す。メンバーは両研究を改良して、11月の県高校芸術文化祭で発表する。